

対象事業完了報告書

28湖周第119号
平成29年3月10日

長野県知事

阿部守一様

岡谷市幸町8番1号

湖周行政事務組合組合長 今井竜五

対象事業の実施を完了したので、長野県環境影響評価条例第31条第1項（長野県環境影響評価条例第40条第1項において準用する同条例第31条第1項）の規定により、下記のとおり送付します。

記

対象事業の名称	湖周行政事務組合ごみ処理施設建設事業
対象事業の実施を完了した年月日	平成28年11月30日
対象事業に着手してから対象事業の実施を完了するまでの環境の保全のための措置の状況	評価書に基づき実施（詳細は別紙）
対象事業に着手してから対象事業の実施を完了するまでの対象事業の実施状況	別添図面のとおり ○解体工事（平成25年11月～平成26年8月） ○造成工事（平成25年11月～平成27年1月） ○建設工事（平成26年8月～平成28年11月）

（備考）必要に応じ、環境の保全のための措置の状況又は対象事業の実施状況に係る図面又は写真を添付すること。

循環型社会形成の拠点として
地域の快適な暮らしを支えます



施設概要

事業主体：湖周行政事務組合(岡谷市・諏訪市・下諏訪町)
施設名称：諏訪湖周クリーンセンター(愛称:ecoポッポ)
所在地：長野県岡谷市字内山4769番14
敷地面積：約20,000m²
建築面積：4,170.17m²
延床面積：8,572.86m²
処理対象物：可燃ごみ、破碎・選別後残渣(大型可燃ごみ)
処理能力：110t/日(55t/24h×2炉)
事業方式：DBO方式
工期：平成25年12月20日～平成28年11月30日

主要設備概要

受入供給設備：計量器、ピット・アンド・クレーン方式
燃焼設備：全連続燃焼式焼却炉(ストーカ炉)
燃焼ガス冷却設備：ボイラ式
排ガス処理設備：ろ過式集じん器、有害ガス除去方式
灰出設備：●焼却灰:加湿処理
●飛灰:薬剤処理
発電設備：蒸気タービン発電(発電出力2,050kW)
通風設備：平衡通風方式

施設の特徴

安全で安心な環境にやさしい施設

- ◎運転の自動化、燃焼温度の連続監視により、適正な運転を行います。
- ◎ダイオキシン類等の排ガス規制値については、最新の排ガス処理設備を装備して、国内でも高水準の保証値を遵守します。
- ◎焼却炉にボイラを設置してごみからの発生熱を有効に利用し、蒸気タービン発電機で発電することで、温室効果ガスであるCO₂を削減します。
- ◎捕集灰中に含まれる消石灰、活性炭を有効利用することで、有害ガスの除去効率を高めるとともに、飛灰の量も削減でき、最終処分量も低減できます。
- ◎プラント排水は、排水処理後、施設内にて極力再使用します。(一部余剰水は下水道放流)

資源循環型社会の形成

- ◎ごみからの発生熱を最大限に回収して電気に変換する高効率ごみ発電(定格2,050kW)を行い、エネルギー回収率の向上をはかります。
- ◎「循環型社会のショーケース」と位置付け、自然エネルギー、リサイクル材、施設緑化を積極的に活用します。

資源循環型社会の拠点となる施設

- ◎見学者用に環境学習設備を備えており、各設備やごみ処理の流れを分かりやすく紹介します。



施設外観



計量棟



車庫等



エントランス広場



プラットフォーム



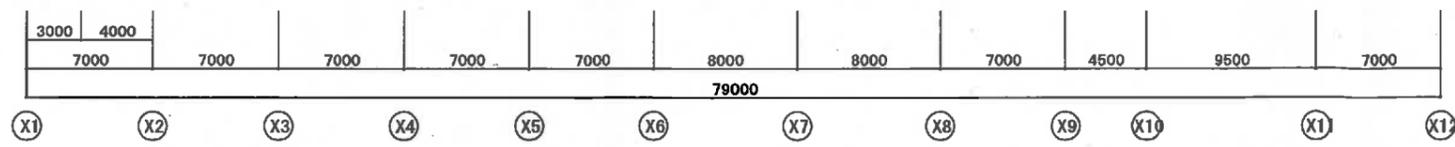
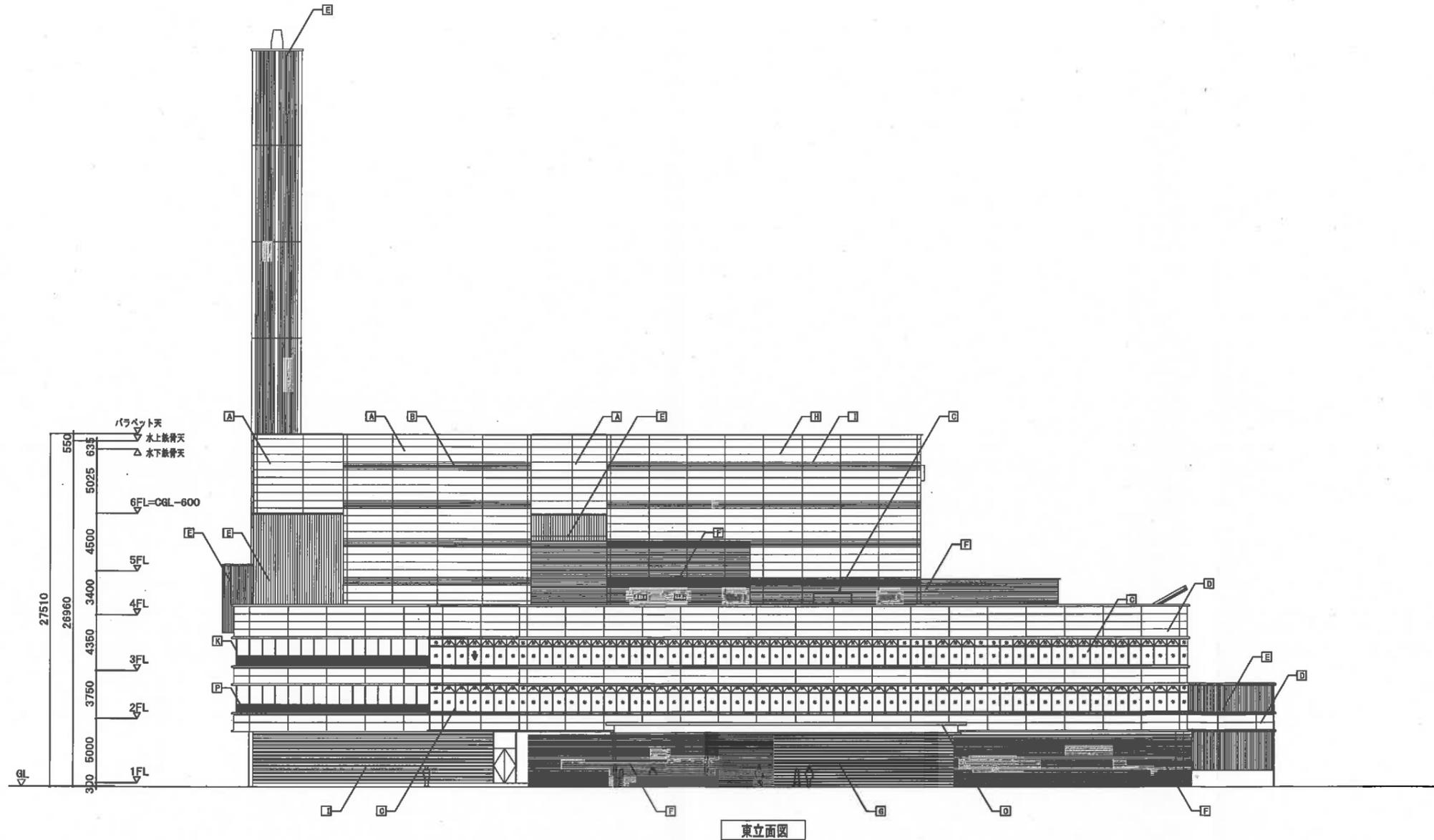
ごみピット



非常用発電機質

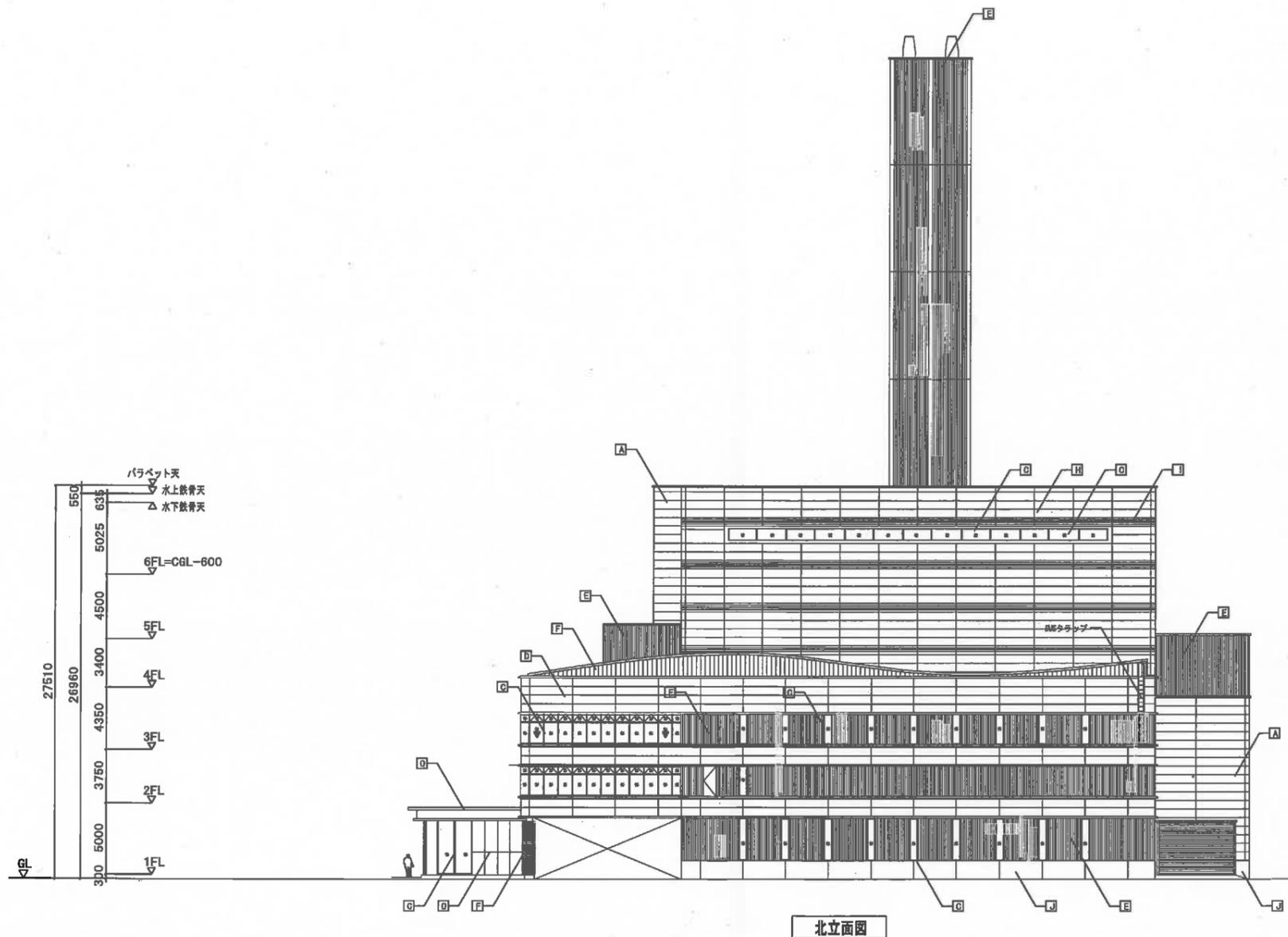


灰搬出場



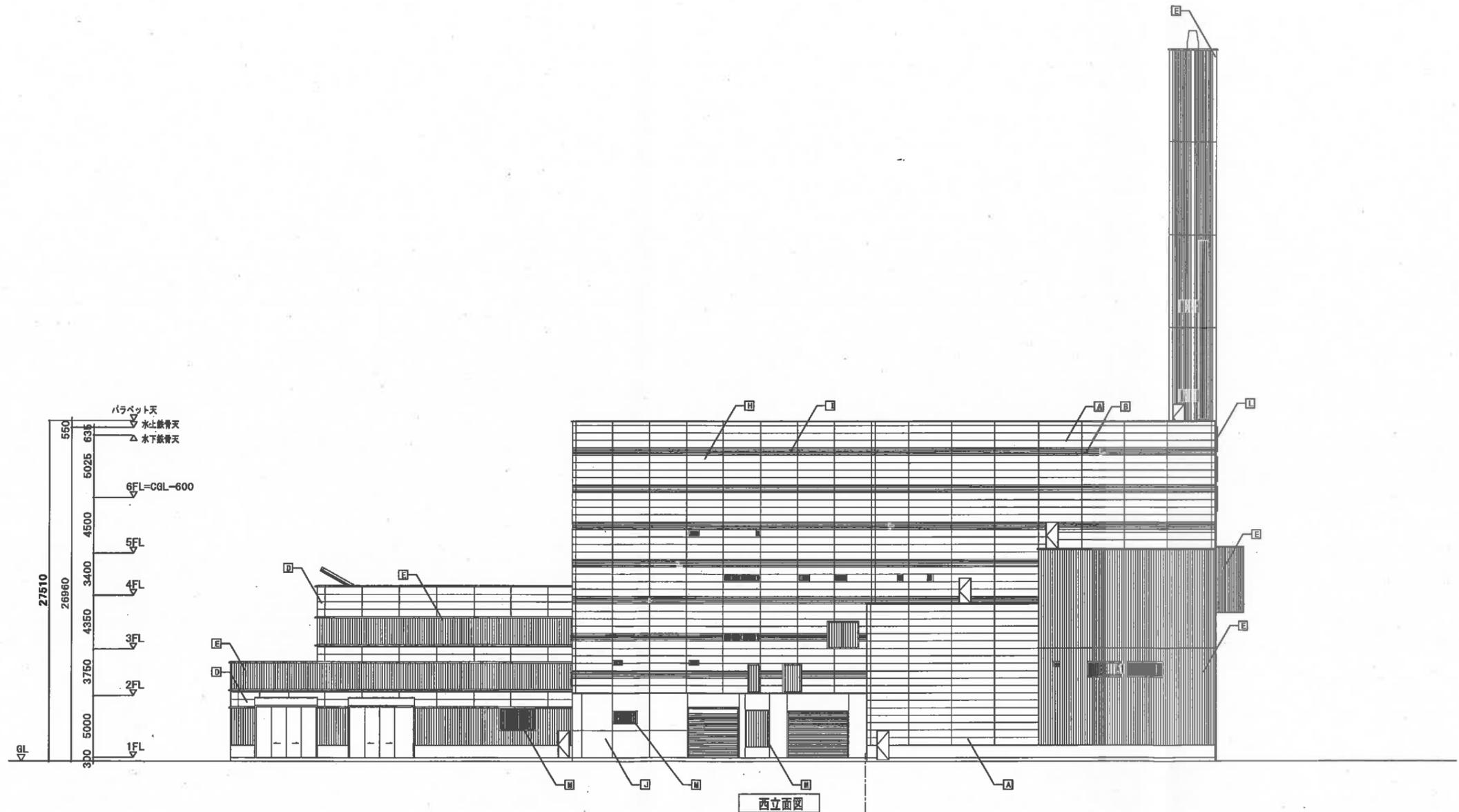
R	A	ALC100 (フラット) 珪性吹付タイル仕上	F	アルミルーバー (電灯2次着色)	K	木ルーバー	P	縦格子手摺
	B	ALC125 (リブ付き) 珪性吹付タイル仕上	G	テラコッタルーバー	L	太陽光発電パネル		
	C	アルミサッシ (電灯2次着色)	H	コンクリート 珪性吹付タイル仕上	M	アルミガラー		
	D	サンディッチパネル	I	コンクリート (リブ隠蔽) 珪性吹付タイル仕上	N	消音サイレンサー		
	E	フッ素樹脂塗装鋼板 t0.5	J	コンクリート打放し (憎水剤コーティング)	O	アルミパネル t3.0		代管出入口

事務局長	課長	係長	監督員	監督員	技術支援	監理調査者	監理者
図号	名称	数量	材質	記号			
承認	客先名	湖周行政事務組合 殿					
調査	工事名	諏訪湖周クリーンセンター整備工事竣工図					
調査	形式	ごみ焼却施設 55t/24h×2炉					
設計	棟名/敷地名					WBS No.	036566
作図	名称	立面図 (1)					
尺度	A1 1/200 A3 1/400	図号	四面番号	A-033		REV	1
日付	16.11.30	タクマ・岡谷組JV					



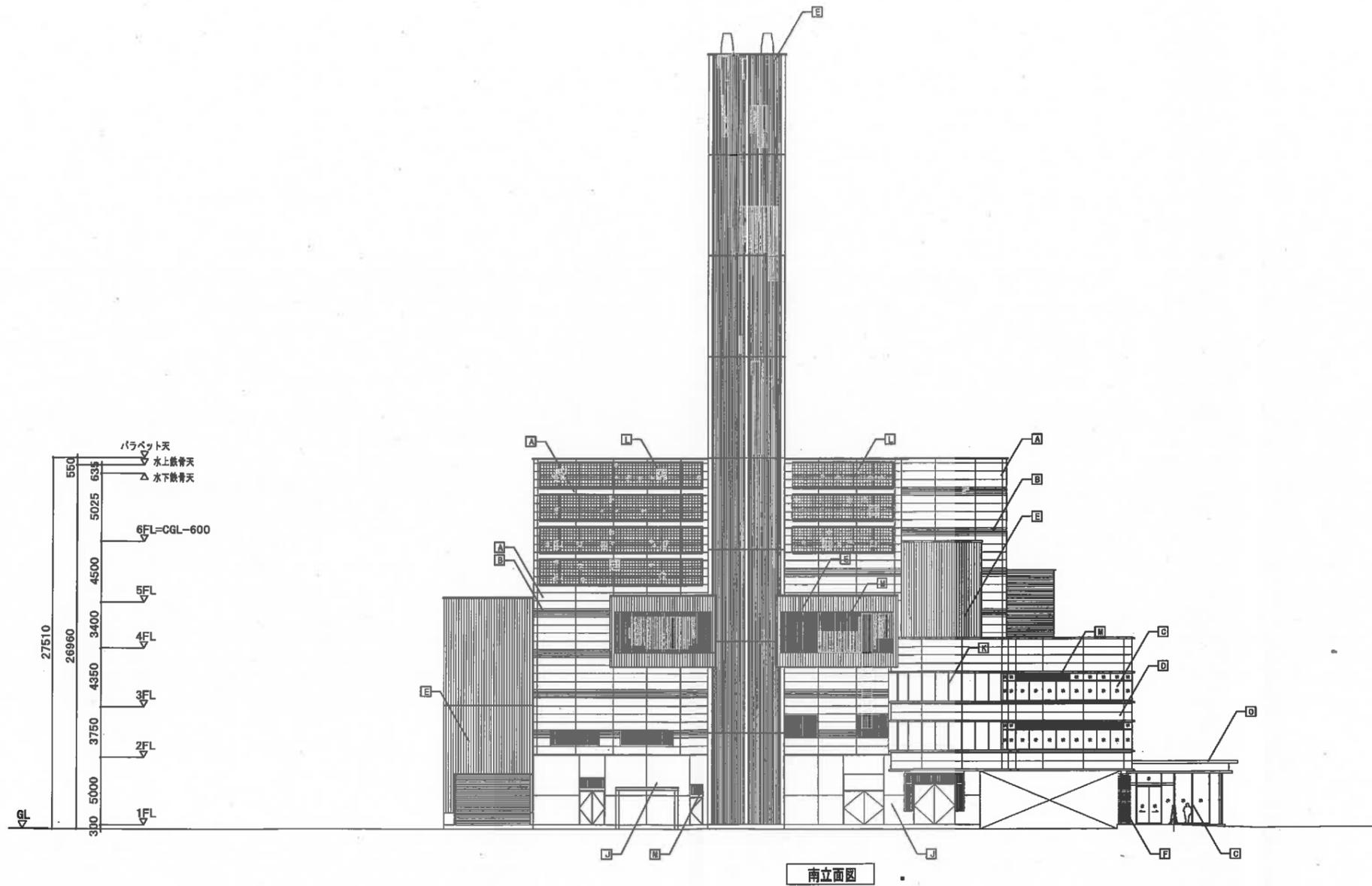
凡例	A	ALCt100 (フラット) 弾性敷付タイル仕上	F	アルミルーバー (電線2次着色)	K	ホルーパー	P	縦格子手摺
	B	ALCt125 (リブ付き) 弾性敷付タイル仕上	G	テラコッタルーバー	L	太陽光発電パネル		
	C	アルミサッシ (電線2次着色)	H	コンクリート 弾性敷付タイル仕上	M	アルミガラリ		
	D	サンドイッチパネル	I	コンクリート (リブ型枠) 弾性敷付タイル仕上	N	消音サイレンサー		
	E	フッ素樹脂塗装鋼板 t0.5	J	コンクリート打放し (撥水剤コーティング)	O	アルミパネル t3.0	▼	代替出入口

事務局長	課長	係長	監督員	監理員	技術文書	監理担当者	監理者
図号	名称	数量	材質	記事			
承認	客先名	湖周行政事務組合 殿					
調査	工事名	諏訪湖周クリーンセンター整備工事竣工図					
調査	形式	ごみ焼却施設 55t/24h×2炉					
設計	図番/図位名					WBS No.	036566
作図	名称	立面図 (2)					
尺度	A1 1/200 A3 1/400	図号	図面番号		A-034		REV 1
日付	16.11.20	タクマ・岡谷組JV					



例	A	ALCt100 (フラット) 珪酸塩付タイル仕上	F	アルミルーバー (電線2次着色)	K	ホルーパー	P	縦格子手摺
	B	ALCt125 (リブ付き) 珪酸塩付タイル仕上	G	テラコッタルーバー	L	太陽光発電パネル		
	C	アルミサッシ (電線2次着色)	H	コンクリート 珪酸塩付タイル仕上	M	アルミガラリ		
	D	サンディッチパネル	I	コンクリート (リブ型) 珪酸塩付タイル仕上	N	消音サイレンサー		
	E	フッ素樹脂塗装鋼板 t0.5	J	コンクリート打放し (排水剤コーティング)	O	アルミパネル t3.0		代替出入口

事務局長	課長	係長	監督員	監督員	技術支援	監理担当者	監理者
図号	名称	数量	材質	記事			
承認	客先名	湖周行政事務組合 殿					
調査	工事名	諏訪湖周クリーンセンター整備工事竣工					
調査	形式	ごみ焼却施設 55t/24h×2炉					
設計	建群/設備名					WBS No.	036566
作図	名称	立面図 (3)					
尺度	A1 1/200 A3 1/400	図号	四面番号	A-035		REV	1
日付	16. 11. 30	タクマ・岡谷組JV					
[SIZE] A1							



凡例	A	ALCt100 (フラット) 珪性吹付タイル仕上	F	アルミルーバー (電線2次着色)	K	ホルーバー	P	縦格子手摺
	B	ALCt125 (リブ付き) 珪性吹付タイル仕上	G	テラコッタルーバー	L	太陽光発電パネル		
	C	アルミサッシ (電線2次着色)	H	コンクリート 珪性吹付タイル仕上	M	アルミガラリ		
	D	サンドイッチパネル	J	コンクリート (リブ型給) 珪性吹付タイル仕上	N	消音サイレンサー		
	E	フッ素樹脂塗装鋼板 t0.5	J	コンクリート打放し (撥水剤コーティング)	O	アルミパネル t3.0		代替出入口

業務部長	課長	係長	監督員	監督員	技術文庫	監理担当者	監理者
図号	名称	数量	材質	記事			
承認	客先名	湖周行政事務組合 殿					
調査	工事名	諏訪湖周クリーンセンター整備工事竣工図					
調査	形式	ごみ焼却施設 55t/24h×2炉					
設計	図面/設計名					WBS No.	036566
作図	名称	立面図 (4)					
尺途	A1 1/200 A3 1/400	図号	図面番号		A-036		REV 1
日付	16. 11. 30	タクマ・岡谷組JV					

工事中における環境保全措置の実施状況

項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	環境保全措置の実施状況	評価書掲載頁
大気質	工事中	工事関係車両の走行	搬入時間の分散	工事関係車両が集中しないよう搬入時期・時間の分散化に努める	低減	搬入時間の分散を計画、実施	4-1-71
			交通規制の遵守	工事関係車両の走行にあたっては、速度や積載量等の交通規制を遵守する	低減	工事関係者に周知徹底	
			土砂搬出車両荷台のシート覆い	土砂搬出時の経路に粉じん等を飛散させないように、土砂搬出車両の荷台をシート等で覆う	低減	飛散防止のため、養生を実施	
			土砂運搬車両等のタイヤ洗浄	土砂搬出車両を含む工事区域に入りする車両のタイヤに着いた土砂は洗浄する	低減	タイヤ洗浄の実施	
			工事用出入口の路面洗浄	工事用出入口の路面に土砂等が落下、流出してきた場合、散水し洗浄する	低減	ほうき等にて清掃及び散水の実施	
	廃棄物搬出入車両等の走行	交通規制の遵守	廃棄物搬出入車両等は、速度や積載量等の交通規制を遵守する	低減	工事関係者に周知徹底	4-1-79	
		効率的な車両運行の実施	効率的な車両運行によって廃棄物搬出入車両等の台数を削減するとともに集中走行を回避する	低減	効率的な車両運行を計画、実施		
	建設機械の稼動	排出ガス対策型機械の使用	建設機械は、排出ガス対策型の建設機械を使用する	最小化	排出ガス対策型の機械を使用	4-1-96	
		建設機械稼動時間の抑制	建設機械は、アイドリング停止を徹底する	低減	アイドリング停止を徹底		
	建設機械の稼動に伴う粉じん	工事区域に仮囲いを設置	粉じんの飛散防止のため、工事区域外周に工事用仮囲いを設置する	最小化	仮囲いを設置	4-1-102	
		排出ガス対策型機械の使用	建設機械は、排出ガス対策型の建設機械を使用する	最小化	排出ガス対策型の機械を使用		
		工事区域への散水	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水を行う	低減	ほうき等にて清掃及び散水の実施		

工事中における環境保全措置の実施状況

項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	環境保全措置の実施状況	評価書掲載頁
騒音	工事中	工事関係車両の走行	搬入時間の分散	工事関係車両が集中しないよう搬入時期・時間の分散化を図る	低減	搬入時間の分散を計画、実施	4-2-19
			交通規制の遵守	工事関係車両は、速度や積載量等の交通規制を遵守する	低減	工事関係者に周知徹底	
		廃棄物搬出入車両等の走行	交通規制の遵守	廃棄物搬出入車両等は、速度や積載量等の交通規制を遵守する	低減	工事関係者に周知徹底	4-2-25
			効率的な車両走行の実施	効率的な車両走行によって廃棄物搬出入車両等の台数を削減するとともに集中走行を回避する	低減	効率的な車両走行を計画、実施	
		建設機械の稼働	工事区域に仮囲いを設置	工事区域外への建設作業騒音の伝搬を抑制するため、工事区域外周に工事用仮囲いを設置する	最小化	仮囲いを設置	4-2-36
				低騒音型機械の使用	建設機械は、低騒音型又は超低騒音型の建設機械を使用する	最小化	
建設機械の稼働時間の遵守	早朝・夜間及び日曜日は、騒音を発生させる作業は原則実施しない			最小化	機械稼働時間等を遵守		
振動	工事中	工事関係車両の走行	搬入時間の分散	工事関係車両が集中しないよう搬入時期・時間の分散化を図る	低減	搬入時間の分散を計画、実施	4-3-14
			交通規制の遵守	工事関係車両は、速度や積載量等の交通規制を遵守する	低減	工事関係者に周知徹底	
		廃棄物搬出入車両等の走行	交通規制の遵守	廃棄物搬出入車両等は、速度や積載量等の交通規制を遵守する	低減	工事関係者に周知徹底	4-3-19
			効率的な車両走行の実施	効率的な車両走行によって廃棄物搬出入車両等の台数を削減するとともに集中走行を回避する	低減	効率的な車両走行を計画、実施	
		建設機械の稼働	低振動型機械の使用	建設機械は、低振動型の建設機械の使用に努める	最小化	低振動型の機械を使用	4-3-26
			建設機械の稼働時間の遵守	早朝・夜間及び日曜日は、振動を発生させる作業は原則実施しない	最小化	機械稼働時間等を遵守	

工事中における環境保全措置の実施状況

項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	環境保全措置の実施状況	評価書掲載頁
水質	工事中	工事による影響	洗浄排水の河川放流の回避	解体に伴う洗浄排水は場外搬出処分とし、河川放流は行わない	回避	水処理施設を設置し適正な処理を実施	4-6-7
			洗浄排水の濁りの管理	洗浄排水の浮遊物質量濃度を10mg/L以下に維持する	低減	濁度計にて測定し管理	
			アルカリ排水の中和及び流出防止	pH調整機能を備えた仮沈砂池を設置する等の対策により、アルカリ排水の流出を防止する	低減	水処理施設を設置し適正な処理を実施	4-6-9
土壌汚染	工事中	土地造成（切土・盛土）	土壌汚染の恐れのない採土場の選定	地歴の確認等により土壌汚染の恐れのない採土場を選定する	低減	状況確認等により実施	4-7-8
			搬入する土砂の適宜測定	搬入する土砂の土壌汚染状況を適宜測定する	低減	該当なし	
			発生土の場内処理	造成により発生した土は、できるだけ建設地内で処理（盛土等）を行う	最小化	場内処理を実施	
	建築物・工作物等の撤去・廃棄、廃材・残土等の発生・処理	工事中	強風時の土工事中止及び散水	強風時には、土工事を中止することに加え、散水を行い、飛散防止対策とする	低減	地山の湿潤状態を確認し、乾燥時は散水して湿潤化	4-7-11
			場外運搬時の車両の洗浄	場外運搬時には、運搬車両のタイヤ等に付着した塵等を現地の設置した洗浄設備にて、洗浄する	低減	タイヤ洗浄実施	
	取水・揚水・排水・水使用	工事中	洗浄前の漏洩防止措置	洗浄水が、土壌中へ浸透しないよう、洗浄前に土間の亀裂の調査、建屋内部の排水側溝の排水先の調査を行い、漏洩及び流出しないよう措置を行う	低減	該当なし	4-7-12
			定期的な点検	適宜、漏洩及び流出が無いよう定期的に点検する	低減	該当なし	

工事中における環境保全措置の実施状況

項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	環境保全措置の実施状況	評価書掲載頁
地形・地質	工事中	土地造成	計画・設計時の確認	盛土部の安定計算の実施	最小化	安定計算を実施	4-8-19
				造成地盤高は、より低く設定することによる安定性への配慮	低減	安定性に配慮して計画	
				小段の設置及び小段への浸食防止排水溝の設置	低減	設置を計画	
				対象事業実施区域の西側斜面に対しては、切土ブロック積擁壁等とすることで、安全性に配慮する	低減	安全性に配慮して計画	
				事業実施区域での排水工整備により、雨水の地下浸透量を現況以上に抑制する	低減	地下浸透量の抑制を計画	
				施工時の配慮	十分な転圧の実施	低減	
	掘削	計画・設計時の確認	適切な掘削位置の検討	最小化	必要最小限の掘削を計画し実施	4-8-20	
			掘削深度の最小化等	最小化	必要最小限の掘削を計画し実施		
			適切な掘削方法の検討	低減	掘削量を抑えた山留工事の実施		
			施工時の配慮	矢板等の設置による崩落防止の実施	低減		山留を設置し。地山の崩落を防止
動物	工事中	建設作業	工事区域に仮囲いを設置	工事区域外への建設作業騒音の伝搬を抑制するため、工事区域外周に工事用仮囲いを設置する	最小化	仮囲いを設置	4-10-42
			低騒音型機械の使用	建設機械は、低騒音型又は超低騒音型の建設機械を使用する	最小化	超低騒音型の機械を使用	
			建設機械の稼働時間の遵守	早朝・夜間及び日曜日は、騒音を発生させる作業は原則実施しない	最小化	機械稼働時間等を遵守	

工事中における環境保全措置の実施状況

項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	環境保全措置の実施状況	評価書掲載頁
動物			作業員への安全配慮の周知	工事中のカモシカ等との衝突事故等に留意する旨を、作業員に対して十分に周知する	最小化	作業員に周知徹底	4-10-42
			希少猛禽類の営巣状況に応じた弾力的な保全措置の実施	希少猛禽類の営巣状況については、工事中に事後調査を実施する。その中で、事業実施区域近傍においては、工事の実施時期や実施手順の検討、監視体制の強化などの保全策について検討を行い、実施の必要があると判断された場合には、保全措置を実施する	最小化	希少猛禽類の営巣状況について、事後調査を実施。	
景観	工事中	工事による影響	工事区域周辺への仮囲いの設置	工事中の大型建設機械等を遮蔽するために、工事区域周辺に仮囲いを設置する	最小化	仮囲いを設置	4-12-9
			仮囲いの色彩等の考慮	仮囲いの資材の選定にあたっては、景観に及ぼす影響を緩和させるような色彩、デザインであることを考慮する	低減	景観に配慮	
			建設中の建屋の囲い	囲いの資材の選定にあたっては、景観に及ぼす影響を緩和させるような色彩、デザインであることを考慮する	低減	景観に配慮	
活動の場 触れ合い	工事中	工事関係車両の走行に係る騒音及び振動	搬入時間の分散	工事関係車両が集中しないよう搬入時期・時間の分散化を図る	低減	搬入時間の分散を計画、実施	4-13-11
			交通規制の遵守	工事関係車両は、速度や積載量等の交通規制を遵守する	低減	工事関係者に周知徹底	

工事中における環境保全措置の実施状況

項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	環境保全措置の実施状況	評価書掲載頁
触れ合い活動の場		工事に伴う騒音	工事区域に仮囲いを設置	工事区域外への建設作業騒音の伝搬を抑制するため、工事区域外周に工事用仮囲いを設置する	最小化	仮囲いを設置	4-13-13
			低騒音型機械の使用	建設機械は、低騒音型又は超低騒音型の建設機械を使用する	最小化	超低騒音型機械を使用	
			建設機械の稼働時間の遵守	早朝・夜間及び日曜日は、騒音を発生させる作業は原則実施しない	最小化	機械稼働時間等を遵守	
	工事中	工事に伴う振動	低振動型機械の使用	建設機械は、低振動型の建設機械の使用に努める	最小化	低振動型機械を使用	4-13-13
			建設機械の稼働時間の遵守	早朝・夜間及び日曜日は、振動を発生させる作業は原則実施しない	最小化	機械稼働時間等を遵守	
	廃棄物	工事中	工事による影響	建設発生土の再利用	掘削工事において発生土がある場合には、場内での埋め戻し等として再生利用を図る	低減	場内利用を計画
コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用				コンクリートくず、金属くず、木くず等は、可能な限り資源として再生利用する	低減	可能な限り資源として再生利用	
現場での分別排出				発生した廃棄物については、可能な限り現場で分別を行い排出する	低減	種類ごと分類し搬出	

施設供用時における環境保全措置内容

項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置の内容
大気質	供用中	廃棄物搬入車両による影響	交通規制遵守の要請
			効率的な車両運行の実施
			排ガス濃度の設定（別紙）
		焼却施設の稼動に伴う排出ガスによる影響	大気汚染物質の連続測定
			適正な排ガス処理の実施
			適正な運転管理の実施
騒音・振動		廃棄物搬出入車両による影響	交通規制の遵守
			効率的な車両運行の実施
		施設の稼動による影響	騒音発生機器の適切な防音・防振措置
			騒音・振動発生の大い機器の屋内への設置
			作業時間の厳守
機器類の定期的な管理			
低周波音	施設の稼動による影響	機器類の定期的な管理	
悪臭	煙突排ガス臭気による影響	適切な排ガス処理の実施	
	施設から漏洩する臭気による影響	ごみピット内空気を燃焼用空気に使用	
		投入扉は投入時のみ開放	
		ごみピット内を負圧に保持	
土壌汚染	施設の稼動による影響	完全燃焼及び急冷等による燃焼管理（排ガス濃度(ダイオキシン類)の管理)	
		活性炭噴霧、ろ過式集塵器の使用	
植物	夜間の照明等の影響	夜間は窓にはカーテン等で締め切る。	
		事業実施区域内のギンラン生育地について、定期的に林床の刈り払いなどの森林管理を行い、生育環境の維持に配慮する。	
触れ合い活動の場		できる限り環境への影響を緩和させるものとし、「騒音・振動」及び「低周波音」と同様の環境保全措置を実施する。	

造成計画平面図

S=1:500 (A1版) S:1:1000 (A3版)

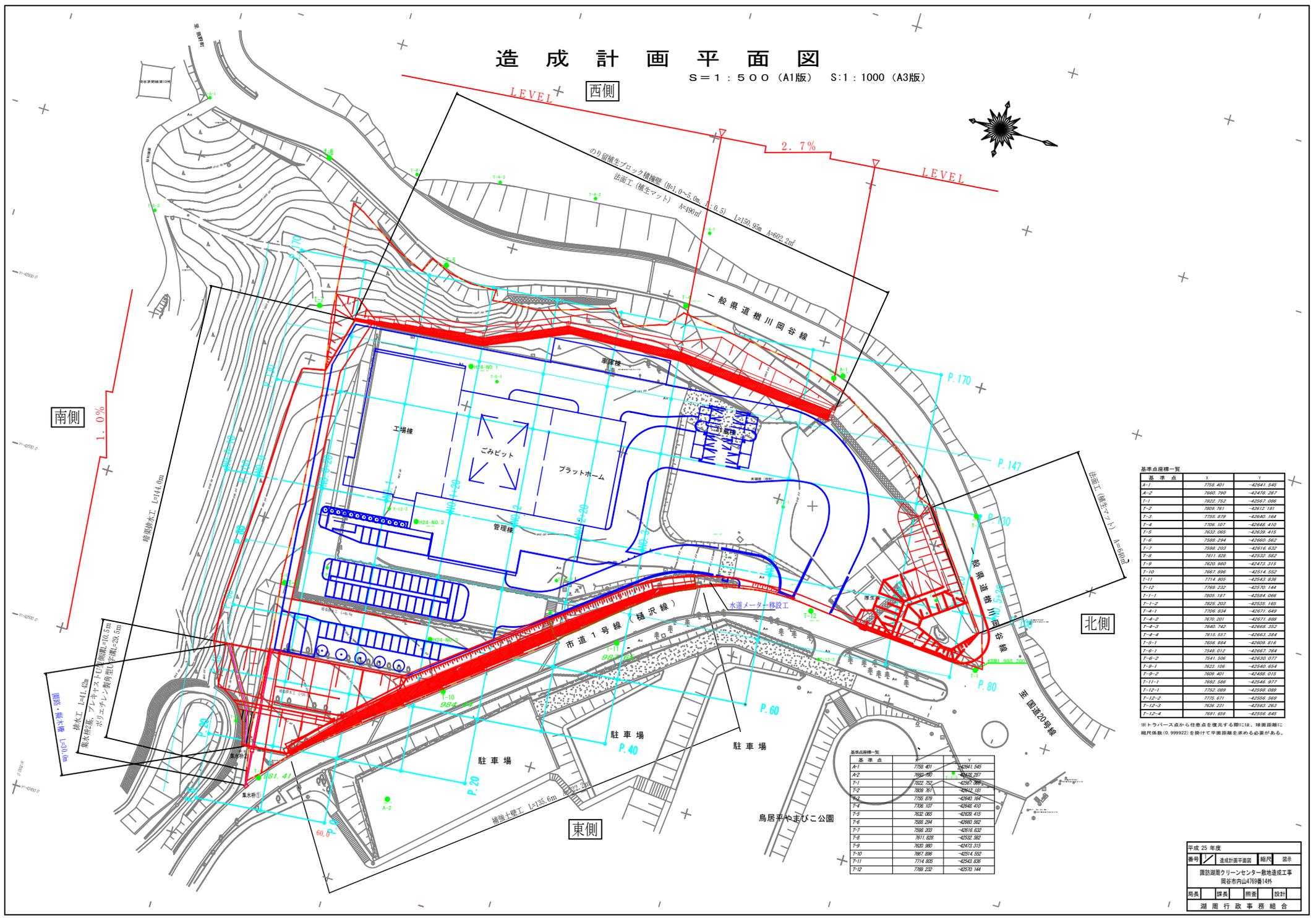
西側



南側

北側

東側



基準点座標一覧

基準点	X	Y
A-1	7752.401	-42641.545
A-2	7660.790	-42478.287
T-1	7652.752	-42567.088
T-2	7650.781	-42512.181
T-3	7755.879	-42640.164
T-4	7708.107	-42648.410
T-5	7632.063	-42639.415
T-6	7688.294	-42660.582
T-7	7686.203	-42416.632
T-8	7611.829	-42532.522
T-9	7620.990	-42472.315
T-10	7667.898	-42514.532
T-11	7714.833	-42642.836
T-12	7769.232	-42519.144
T-1-1	7655.187	-42584.066
T-1-2	7625.203	-42535.185
T-4-1	7706.834	-42671.649
T-4-2	7670.201	-42671.888
T-4-3	7640.743	-42668.355
T-4-4	7616.557	-42663.524
T-5-1	7658.994	-42609.816
T-6-1	7648.012	-42667.784
T-6-2	7641.538	-42620.077
T-9-1	7621.106	-42540.564
T-9-2	7659.401	-42488.015
T-11-1	7692.586	-42546.977
T-12-1	7752.089	-42558.089
T-12-2	7775.671	-42558.589
T-12-3	7635.521	-42562.522
T-12-4	7691.658	-42558.845

※トラス点から任意点を復旧する際には、座標距離に
縮尺係数(0.599922)を掛けて中間距離を求めなければならない。

基準点座標一覧

基準点	X	Y
A1	7752.401	-42641.545
A2	7660.790	-42478.287
T-1	7652.752	-42567.088
T-2	7650.781	-42512.181
T-3	7755.879	-42640.164
T-4	7708.107	-42648.410
T-5	7632.063	-42639.415
T-6	7688.294	-42660.582
T-7	7686.203	-42416.632
T-8	7611.829	-42532.522
T-9	7620.990	-42472.315
T-10	7667.898	-42514.532
T-11	7714.833	-42642.836
T-12	7769.232	-42519.144

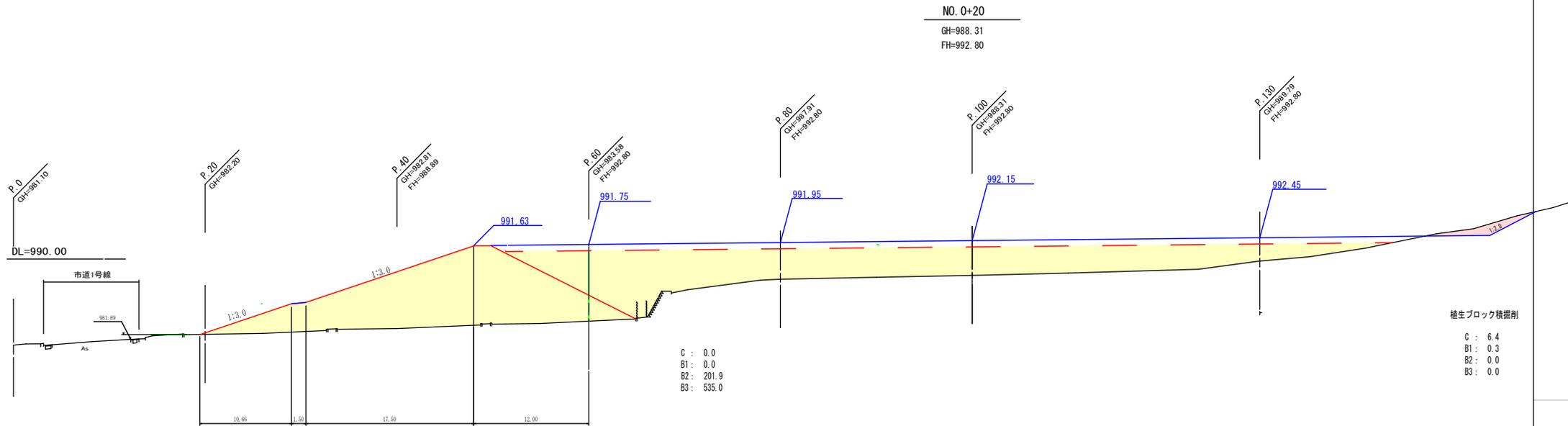
平成25年度

番号	造成計画平面図	縮尺	表示
諏訪湖周クリーンセンター敷地造成工事 諏訪市内山476番14号			
局長	課長	担当	設計
湖周行政事務組合			

横断面図 1

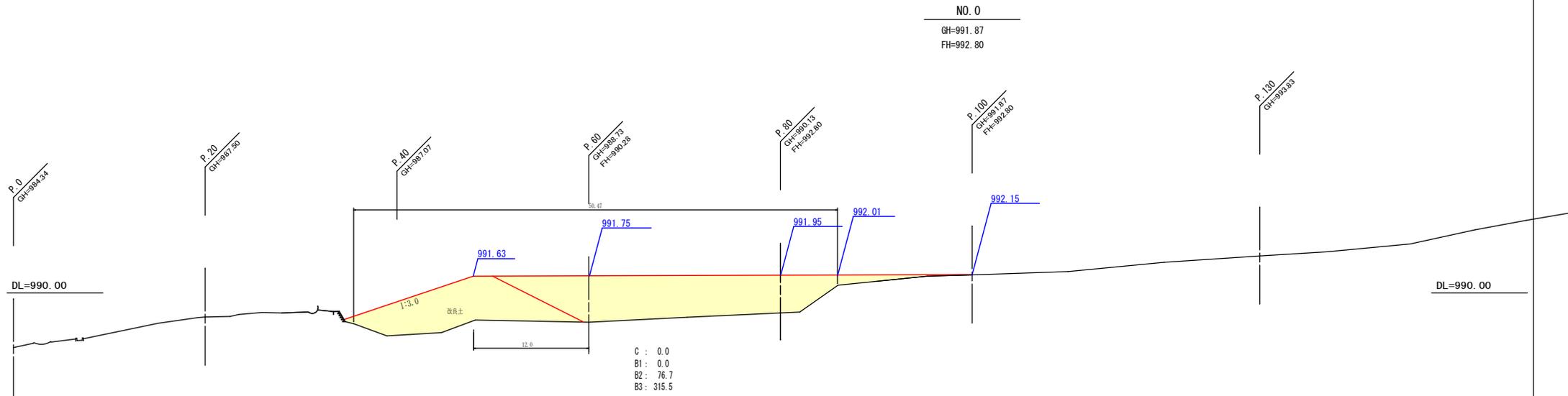
S = 1 : 200

(A3版 縮尺=1 : 400)



植生ブロック積捌

C : 6.4
B1 : 0.3
B2 : 0.0
B3 : 0.0

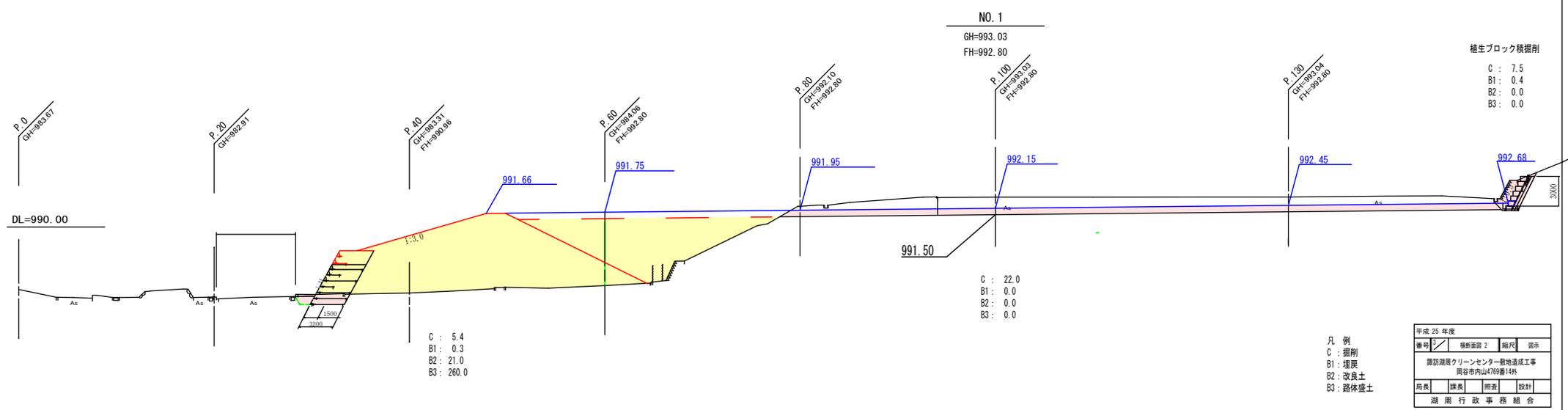
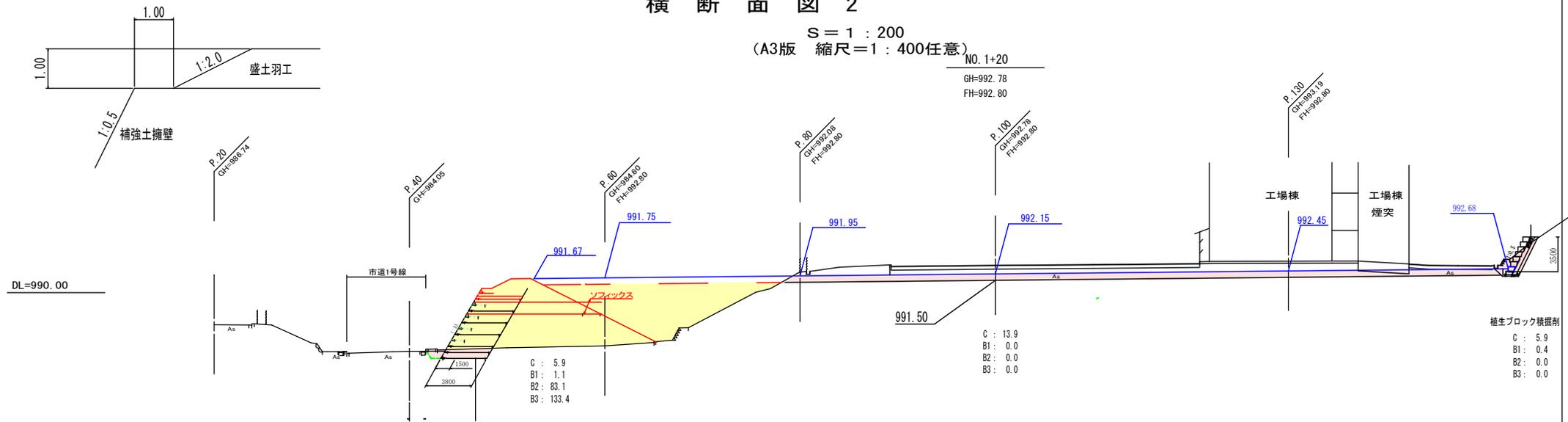


- 凡例
C : 掘削
B1 : 埋戻
B2 : 改良土
B3 : 路体盛土

平成 25 年度			
番号	横断面図	縮尺	図示
諏訪湖周クリーンセンター敷地造成工事			
岡谷市内山4789番14号			
図尺	図長	図差	図計
湖 周 行 政 事 務 組 合			

横断面図 2

S = 1 : 200
(A3版 縮尺=1 : 400任意)

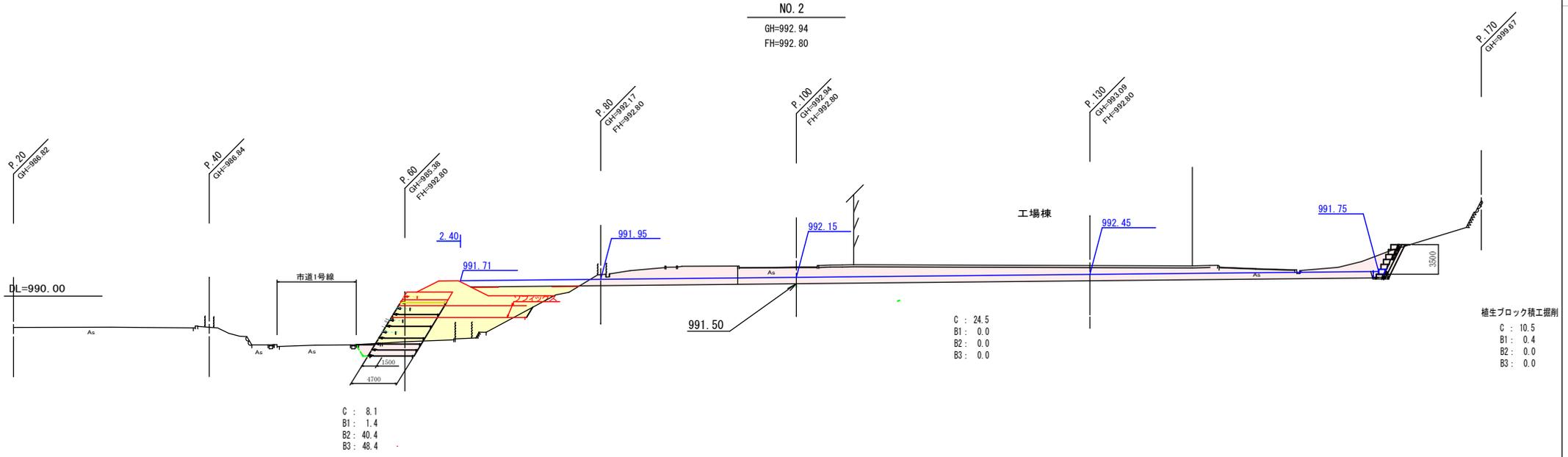
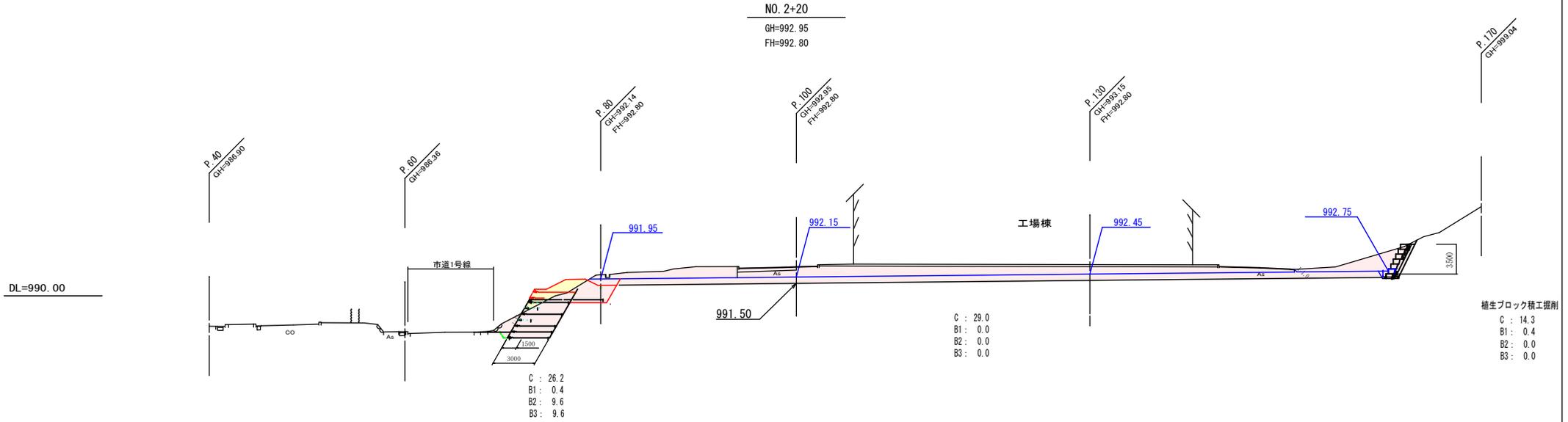


- 凡例
 C : 掘削
 B1 : 埋戻
 B2 : 改良土
 B3 : 路体盛土

平成 25 年度			
番号	横断面図 ?	縮尺	図示
諏訪湖周回クリーンセンター敷地造成工事 岡谷市内山4769番14外			
局長	課長	監査	設計
湖周行政事務組合			

横断面図 3

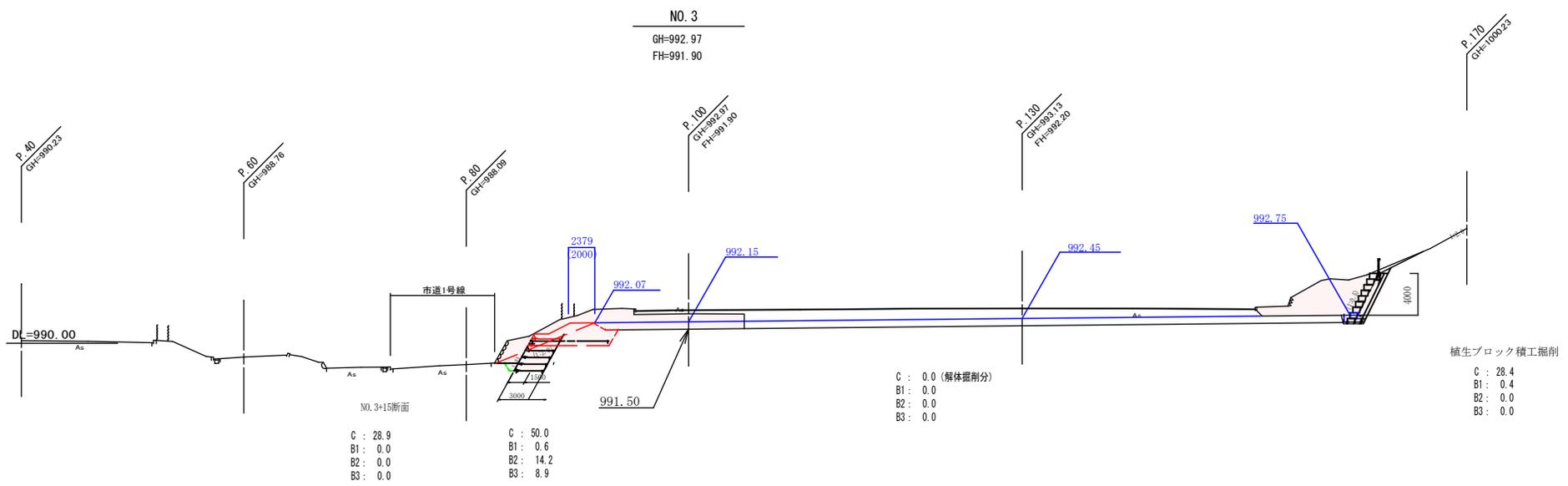
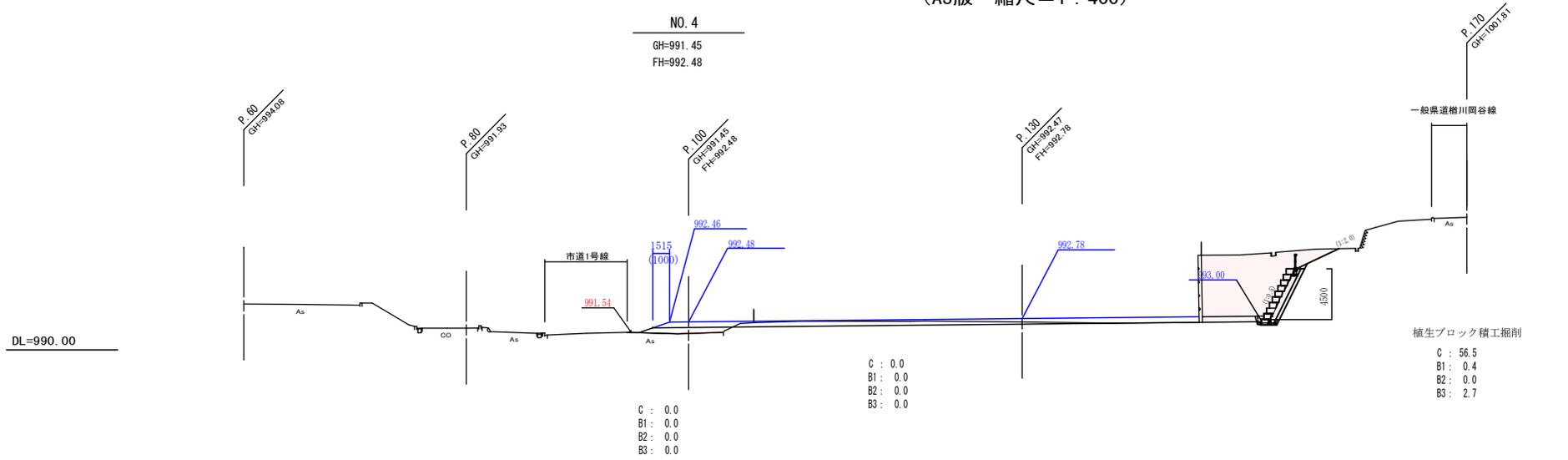
S = 1 : 200
(A3版 縮尺=1 : 400)



平成 25 年度			
番号	横断面図 3	縮尺	図示
諏訪湖クリーンセンター敷地造成工事 諏谷市内山4759番14外			
局長	課長	照査	設計
湖	周	行	政
事	務	組	合

横断面図 4

S = 1 : 200
(A3版 縮尺 = 1 : 400)



平成 25 年度			
番号	横断面図 4	縮尺	原示
諏訪湖周クリーンセンター敷地造成工事 岡谷市内山4709番14外			
局長	課長	監査	設計
湖周行政事務組合			

■造成地工事

土量計算書

測点 番号	断面積				平均断面積				点間 距離	掘 削 C	他工事 掘削	埋戻し B1	改良土	盛 土 B3
	掘 削 C	埋戻し B1	改良土	盛 土 B3	掘 削 C	埋戻し B1	改良土	盛 土 B3						
NO.0-3	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
NO.0	0.0	0.0	76.7	315.5	0.00	0.00	38.35	157.75	3.0	0.0		0.0	115.1	473.3
NO.0+20	6.4	0.3	201.9	535.0	3.20	0.15	139.30	425.25	20.0	64.0		3.0	2786.0	8505.0
NO.1	34.9	0.7	142.6	260.0	20.65	0.50	172.25	397.50	20.0	413.0		10.0	3445.0	7950.0
NO.1+20	25.7	1.5	83.1	133.4	30.30	1.10	112.85	196.70	20.0	606.0		22.0	2257.0	3934.0
NO.2	43.2	1.8	40.4	48.4	34.45	1.65	61.75	90.90	20.0	689.0		33.0	1235.0	1818.0
NO.2+20	69.5	0.8	9.6	9.6	56.35	1.30	25.00	29.00	20.0	1,127.0		26.0	500.0	580.0
NO.3	78.4	1.0	8.9	8.9	73.95	0.90	9.60	9.25	20.0	1,479.0		18.0	192.0	185.0
NO.3+15	57.3	0.4	0.0	8.9	67.85	0.70	0.00	8.90	15.0	1,017.8		10.5	0.0	133.5
NO.4	56.5	0.4	0.0	2.7	56.90	0.40	0.00	5.80	25.0	1,422.5		10.0	0.0	145.0
NO.4+8	56.5	0.4	0.0	2.7	56.50	0.40	0.00	2.70	8.0	452.0		3.2	0.0	21.6
NO.4+8	0.0	0.0	0.0	0.0	28.25	0.20	0.00	1.35	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0
NO.4+30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	22.0	0.0		0.0	0.0	0.0
NO.4+30	136.2	0.0	0.0	5.3	68.10	0.00	0.00	2.65	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0
NO.5	136.2	0.0	0.0	5.3	136.20	0.00	0.00	5.30	10.0	1,362.0		0.0	0.0	53.0
NO.5+20	1.1	0.0	0.0	2.9	68.65	0.00	0.00	4.10	20.0	1,373.0		0.0	0.0	82.0
解体工事 掘削残土(地山換算)											4,680.0			
新施設建設工事 掘削残土(地山換算)											12,000.0			
小計									223.0	10,005	16,680	136	10,530	23,880

* 土量変化率 C=締固め後量/地山量 係数C=0.90より 地山量=締固め後量/0.90

* 地山=(埋戻+盛土)/0.90=(136+23,880)/0.90=26,684<(掘削+他工事掘削)10,005+16,680=26,685

知事意見に対する対応状況について

【準備書に対する知事意見及び事業者の見解（評価書から抜粋）】

地形・地質	湖周行政事務組合の見解
現時点で想定される掘削場所、深度など造成計画を具体的に示すこと。また、計画地における地すべりの形態、土地の安定性に係る現況及び建設による安定性への影響について、施工前に十分なデータを集め、建物の配置や対策工等に適切に反映すること	現時点で想定される掘削場所と深度を評価書で示します。 計画地における地すべりの形態、土地の安定性への影響については、施工前に十分なデータを集め、建物の配置や対策工等に適切に反映するよう努めてまいります。

【対応】

知事意見への対応として、評価書時において計画地における地すべりの形態、土地の安定性の影響についてデータを収集し、造成工事にあたっては切土・盛土の法面を含む計画地地盤の安定性を確保するため、以下の対策を講じた。（実施状況の写真及び図面は別紙参照）

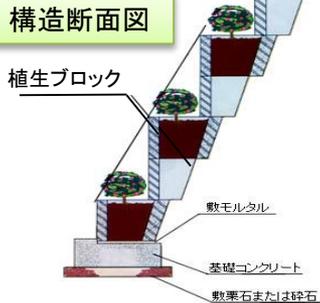
- ・ 盛土部の安定計算の実施
- ・ 造成地盤高は、より低く設定する
- ・ 小段の設置及び小段への侵食防止排水溝の設置
- ・ 十分な転圧を行う
- ・ 対象事業実施区域西側斜面に対しては、切土ブロック積擁壁とし、安定性に配慮

植生ブロック

・植生ブロックは、重さが約280kg/個のブロックを水平階層状に積み重ねてゆくことによって壁体が築造される土留め構造物(擁壁)です。積み上げたブロックに樹木類を植えることができ、壁面の緑化が可能な環境に配慮したブロックです。

寒中養生

・植生ブロックの施工開始時期は、冬季の施工になったため、裏込めコンクリートの寒中養生にダクトヒーターを使用しました。その結果、コンクリートの養生温度を5℃以上に保つことができ、コンクリートの適切な品質確保ができました。

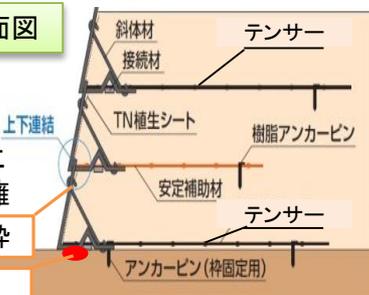


ダクトヒーター

補強土壁

・補強土壁は、垂直に近い壁面に作用する土圧に対して、盛土内に敷設した補強材(テンサー)の引き抜き抵抗力によってつり合いを保つ土留め構造物(擁壁)です。

構造断面図



平板載荷試験

・平板載荷試験は、基礎地盤まで掘削を行い、載荷板(直径30cmの円盤)を置いて実際の構造物の重量に見合う荷重をかけて沈下量を測定し、地盤の支持力を判定する試験です。

試験箇所



設計荷重	支持力
164kN/m ²	169kN/m ²

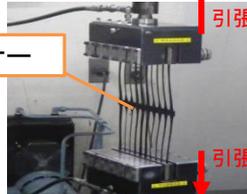


載荷版

補強材(テンサー)引張試験

・補強土壁の施工前に補強材製作工場で、補強土壁内に敷設する補強材(テンサー)の引張り試験を行いました。

テンサー



引張

引張

諏訪湖周クリーンセンター敷地造成工事

1日も早い湖周ごみ処理施設の稼働をめざして

竣工



着工前

敷地西側法面



竣工



着工前

敷地東側法面

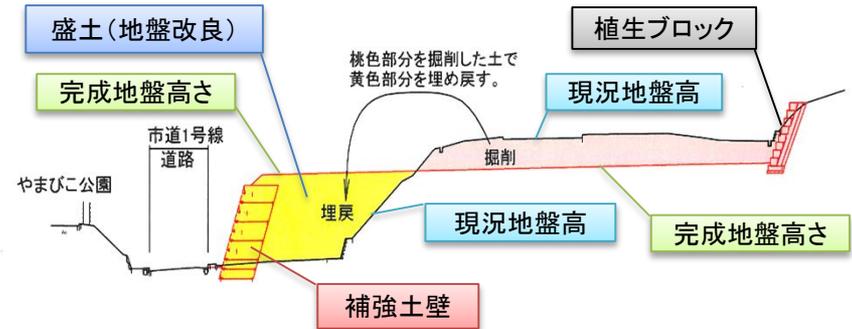


施工業者：株式会社岡谷組

工事概要

- ① 工事名: 諏訪湖周クリーンセンター敷地造成工事
- ② 工事箇所: 岡谷市内山4769番14外
- ③ 工期: 平成25年7月10日～平成27年3月13日
- ④ 請負代金: 160,706,400円
- ⑤ 請負業者: 株式会社岡谷組
- ⑥ 工事内容
 - ・土工(掘削、盛土 $V=23,800\text{m}^3$ 、地盤改良 $V=14,000\text{m}^3$ 、法面整形)
 - ・植生ブロック $A=605\text{m}^2$
 - ・補強土壁 $A=741\text{m}^2$
 - ・排水工(暗渠排水 $L=204\text{m}$ 側溝工 $L=40\text{m}$ 集水柵 $N=2$ 基)

造成工事断面図(A-A')



◎造成工事は、諏訪湖周クリーンセンターの建設に必要な平地を確保するため、既存の岡谷市清掃工場平地と臨時駐車場平地等の高低差を、関連する工事から発生する掘削土を有効的に活用して埋戻し、平地を広げる工事を行いました。
 ・平地面積 当初約 $9,500\text{m}^2$ →約 $14,000\text{m}^2$ (約1.5倍に拡大)



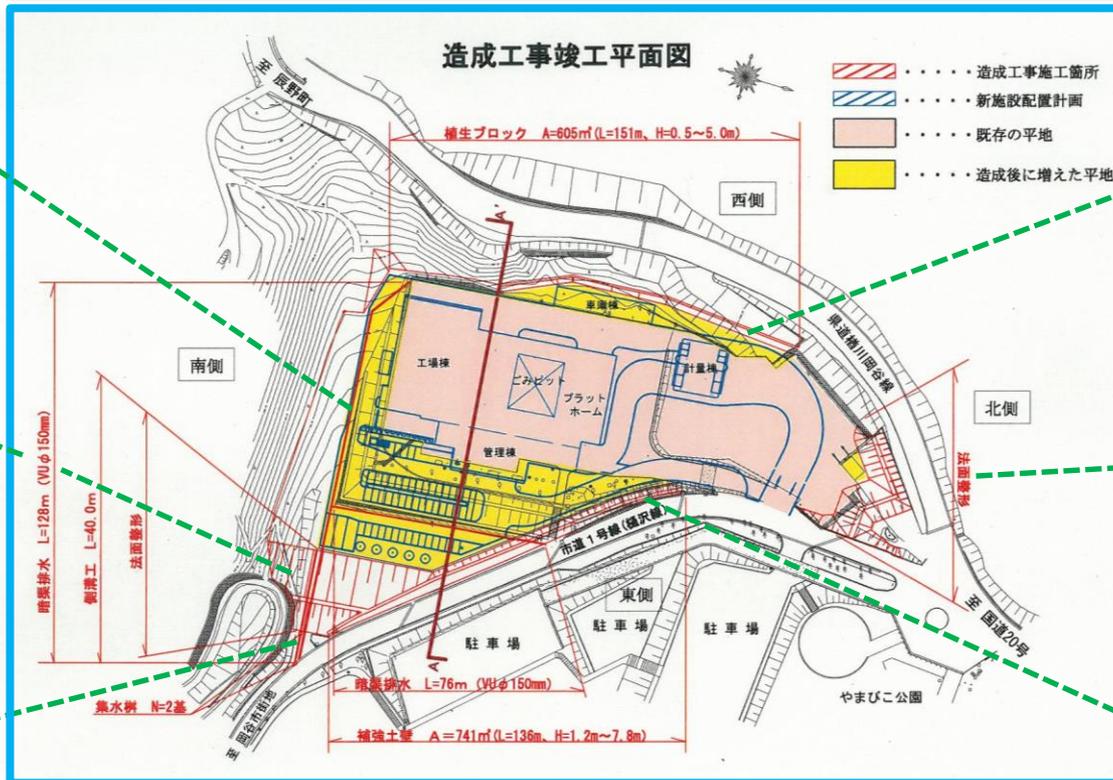
暗渠排水



盛土、法面整形



側溝工



植生ブロック



法面整形



補強土壁